

東北復興日記



が、今市内の教育現場でも広がっています。今年栽培を手がけるのは、小学校二十校、中学校九校、高校一校の計三十校。隣町の広野町児童館でも栽培され、たぐさんの子供たちがコットンの育つ様子を目にします。震災を機に始めら

月十三日はキャンセル待ち。九月十二日は申し込み受け付け中です。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

未来へ伝える 思いの種

「もこもこしていて、かわいい!」教科書に載っていたのと色が違うよ」。薄茶色の短い綿に覆われた七ッほどの長さの種を手にした子供たちが声をあげます。写真。「これは茶色いコットンの種。Tシャツになる糸をこの周りのふわふわから作り出す。ふわふわを外した種を今日はまきます」。五月十四

ふくしまオーガニックコットンプロジェクト代表 吉田恵美子さん



日、福島県いわき市立小名浜第一小学校の校庭で、四十三個のプランターを前に、小学三年生の児童を対象とした出前授業が始まりました。

震災後、いわき市を中心に始まった「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」。耕作放棄地の再生を市民の力で進めようと始まった試み

れたこと。日本伝統の種であること。命を大切に作る有機農法であること。自分たちの身近な繊維になる作物であること。次世代にこの栽培を通してさまざまなメッセージを伝えたいと思っています。栽培が広がっているのは、いわき市内だけではなく、

スツアーへの参加でした。「安全に、安心して生活を続けることができる地球・地域を、未来を担う子供たちに引き継ぐために……」との思いで立ち上がったNPOの活動のきっかけが、福島にあったことは必然であるのかもしれない。この応援バスツアーは本年度も継続実施されますので、ぜひ一度おでかけください。

バスツアーの詳細はホームページ(アドレス=

http://www.jksk.jp/)を。六

www.jksk.jp/)を。六